

小学五年

国語

解答と解説

1

問十一			
か	で	怒	茂
ら	は	っ	三
。	な	た	が
	い	り	約
	こ	あ	束
	と	き	を
	が	れ	破
	わ	た	っ
	か	り	た
	り	し	自
	、	て	分
	安	い	の
	心	る	こ
	し	わ	と
	た	け	を

問十
い
っ
も
は
出

30

問八
農
家
の
朝
は

28

問九
て
っ
く
り
け
え
り

29

問一
ア

21

問二
ウ

22

問三
イ

23

問四
エ

24

問五
イ

25

問六
エ

26

問七
エ

27

31
32
33
34

		5	4	3			2
⑥	①	①	①	①	問八	問四	問一
群 集	友 情	エ	イ	エ	エ	「	エ
61	56	50	45	42	問九	大	問二
⑦	②	②	②	②	イ	型	イ
陽 性	予 報	イ	エ	イ	43	の	問三
62	57	51	46	43	問十	生	A
⑧	③	③	③	③	わ	38	本
混	漁 師	カ	ア	ア	ざ	問五	来
63	58	52	47	44	わ	イ	の
⑨	④	④	④	④	ざ	39	サ
築	両 断	オ	エ	エ	39	問六	イ
64	59	53	48	44	39	ウ	B
⑩	⑤	⑤	⑤	⑤	問七	40	エ
豊	球 技	ウ	エ	エ	エ	41	サ
65	60	54	49	44	41	41	や
		⑥	⑥	⑥			す
		ア	ア	ア			み
		55	55	49			37

(配点)

① (問十一) 8点、他各5点

② 各5点

③④⑤ 各2点

計150点

【解説】

1 村山由佳の『雪のなまえ』（徳間書店）から出題しました。

方言での会話がが多いので、言葉を類推しながら読み進める必要があります。登場人物たちの会話、表情、しぐさなどから、それぞれの心情を読み取りましょう。

問一 B1 理由 比較

——線①の直後に『わかった』そう答えるのが精いっぱいだった。(任せて) …言えたらよかったのに、とても言えなかった：ひどく心細くなった」とあることから、——線①は、航介に一人前として頼りにされている以上、航介が安心して英理子の看病に専念できるような言葉をかけるべきだとわかっているのに、それができない弱さ・自信のなさが自分にあると気づき、これからのことを思い緊張したのだと考えられます。ですから答えはアです。イ「航介から：覚悟があるかを問われ」、ウ「雪乃が先頭に立って：決心した」、エ「今こそ航介の信頼に応えたいと思った」の部分が本文の内容と合いません。

問二 B1 具体化 比較

——線②の茂三の言葉を受けて、ヨシ江が「そうそう、航介がまたま帰った時で良かった」と言っていることから、英理子が倒れたのと航介が東京に帰ったタイミングが重なったことを「不幸中の幸い」と表現していることがわかります。

問三 B1 具体化 比較

——線③の前からはじまっている雪乃の申し出に対し茂三は「何するだ?」「え?」と答えており、意外な展開に状況がのみ

こめていないことがわかります。のちの展開から、茂三たちは、アのように、雪乃が農業の厳しさを理解できていないことを不満に思っているわけでも、ウのように手伝われても迷惑だと思っているわけでもありません。エ「不安定」「心配」という部分が本文の内容からは読み取れません。

問四 B1 具体化 比較

——雪乃が自分は若いから大丈夫と言ったことに対し、茂三が「おれらみたいなルートル(ポンコツの年寄り)と比べちゃなんねえわ」と答えたので、雪乃は自分の不用意な一言で茂三が自分たちのことを「ポンコツの年寄り」と言ったのだと思いこみ、動揺して「慌てて打ち消した」のでしよう。「え、そんなことないよ!」「慌てて」などの言葉から「あせり」の気持ちを読み取りましょう。ウ「ひがみ腹を立てて」「どうすれば：機嫌がなおるのか」などの部分が読み取れません。

問五 B1 関係づけ 比較

⑤の直前に「目覚ましをセットした時刻を三十分も過ぎていた。知らないうちに止めて」とあることから、⑤を含む一文は、いつのまにかまた寝てしまっていた、というような意味になりますから、答えはイ「うとうと」です。

問六 B1 関係づけ 比較

——ヨシ江は雪乃が起きなかったことに対して責める気持ちもなし、茂三と同じく、雪乃は起きたら手伝いに行くだろうと思つて朝食をお弁当にしてくれています。だから、「ぎろりと」のような敵意のある視線を送るとは考えられません。また、ヨシ

江は始終動じていませんから、「きよるきよると」「しよぼしよぼと」も不適切です。

問七 **B1** 具体化 比較

——線⑦の直後に「茂三の言うとおりだ」とあり、急いで準備をしていることから、雪乃は自身の中に甘えがあつたことに気づき、その甘えに気づかず不満でもらした自分を恥ずかしく思う気持ちを「心臓が硬くなる思い」と表現したのだとわかります。ア「甘やかしてくれろ」とかをくくっていた…ヨシ江につきつけられ、「イ」見捨てられた」「周囲と…恐れる気持ち」「ウ」自立すべきだと改めて身をひきしめる」等が本文の内容からは読み取れません。

問八 **B1** 理由 関係つけ

——線⑧「やっぱり走りだした」とありますが、急いで茂三のところに行かなくてはならない理由を読み取りましょう。——線⑧の直前に、朝の光景の描写があり、雪乃はそれを見て「農家の朝はとづくに始まっているのだ」と感じています。雪乃は農家の手伝いをするということはどういうことか、この朝の光景からも実感したのでしょう。 ※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九 **B1** 関係つけ

⑨を含む一文をよく読みましょう。「足がもつれ、危うく本当に⑨そうになった」とあります。ここには「ころぶ」というような意味が入ることがわかります。同ページの上段に

二度、「ころぶ」の方言である「てつくりける」が出てきました。本文にあてはまるように活用させて答えましょう。 ※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十 **B1** 理由 関係つけ

雪乃に茂三の居場所を伝える際、ヨシ江は「雪ちゃんが後からちゃんと言ってくつて、爺さんにはわかってたわい。いつもは出がけになーんも言わねえのに、今日はわざわざ『ブドウ園の隣の畑にいるだから』って言つてつただもの」と言っていました。 ※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十一 **B2** 理由 推論

「胸のつかえ」は「茂三は怒っていないだろうか：あきれているんじゃないだろうか」という不安です。それが誤解だったとわかり、安心した気持ちを「すうつと楽になつ」たと表現しているのでしょうか。①「胸のつかえ」の内容を明らかにしているか、②「安心した」「ほっとした」と同意の表現が入っているかがポイントになってきます。また理由を問われていますが、文末は「〜から。」です。 ※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

② 稲垣采洋『生物に学ぶ ガラパゴス・イノベーショ』(東京書籍)から出題しました。島という特殊な環境を説明し、そこで生きる生物はどんなふうに進化を遂げていくかを説明しています。孤立した島で生きる生物は、特殊で一見奇妙な進化を遂げていきます。しかし、自分の生きる環境にあわせて進化していくことがその生物にとって合理的なことであるということをおさえましょう。

問一 B1 具体化 比較

島における生存競争について、——線①の直後四段落で説明されていますので、そこを中心に読みとります。そこには、「限られた面積の中で、限られた資源をめぐる」「種内競争が激しくなる」とあります。ア「激しい競争自体が起こらない」、イ「種間競争」、ウ「圧倒的な力を持つ捕食者との激しい競争」の部分がそれぞれ不適切です。

問二 B1 具体化 比較

——線②直後に「鳥だって飛ぶ必要がなければ、飛ばなくたっていい」とあります。なぜそんなことがいえるかということが、6ページ下段の部分に説明してあります。そもそも鳥にとって「飛ぶ」ということは、それだけエネルギーを消耗する行動であり、できれば避けたい行動」であり、天敵も少なく、暮らしやすい孤立した島においては、「遠くまで」移動する必要がなく、敵から逃れる必要もな」いので、鳥は飛ばなくても生存しているのです。だから、「鳥は飛ぶのが当たり前」とか「鳥は飛ぶべき」というのは誤りということ。そのことにふれているのはイです。ア「飛びたくても『飛ぶ』ことのできない鳥も

いるので」、ウ『飛ぶ』ことのできない鳥は：飛ぶ鳥より高等な生存戦略をとっている」、エ「キーウイなどの鳥は：生存するために必要があれば飛ぶ」「鳥は状況に応じて飛ぶものである」とするのが正しい」の部分それぞれ本文から読みとれせん。

問三 B1 理由 関係づけ

——線⑤直後の四段落で「孤立化した小さな島では：大きな動物は、大陸にすむ種類よりも、体が小さくなり矮小化する」理由が示されています。その部分からあてはまる言葉を抜き出しましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四 B1 具体化 関係づけ

⑧・⑨を含む段落で、「…小さな生物は、島にすむ種類の方が、大陸にすむ種類よりも体のサイズが大きくなり巨大化する」ことについて説明されています。そこには「種内競争」の際に「有利」とあつて、リード文の後半の内容が示されています。実は、巨大化について、この部分ではない箇所でも触れられています。——線⑬の直後の段落から最後までのもです。そこには、「島にやってきた小さな生物の中には、その『大型の生物』というニッチを埋めるように、巨大化するものもある」とあります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五 B1 具体化 比較

——線⑤「このようなこと」を含む一文は、「どうして、このようなことが起こるのだろうか」という問題提起の文です。それ以降で島嶼化が起きる理由について説明が続いています。ですから、「このようなこと」は「島嶼化」を指します。島嶼化について具体的に書かれているのはイです。設問の条件にも注意して取り組みましょう。

問六 B1 関係つけ 比較

接続語の問題ですから、前後の文の関係を読みとります。
 ⑥の前では「(大陸では)天敵から身を守るために、体を大きくしている」のに、「島では…身を守る必要がないために、体のサイズが小さくなる」とあり、後で「身を守るために…無理をして大きな体にしていた」と結論づけています。ここには順接、もしくは言いかえの接続語が入ります。⑦を含む一文に「体を小さくすることは…上でも役に立つ」とあり、この文は前の文に付け加えている文だとわかります。ここには「また」か「一方」しか入りませんから、アは消せます。⑧の直前は一行空いていますから、話題が変わっていることが想定できます。実際ここからは巨大化の話になっています。ですからここには話題転換の接続語が入りますので、イも消せます。
 ⑨以降では、ネズミを例に出して「小さいことは、生存競争にとって不利」かどうかを説明していますから、ここには「たとえば」を入れるのが適当です。

問七 B1 具体化 比較

——線⑩の直前の段落でメリットについて二点示していま

す。一つは、「小さい体のほうが身を隠しやすい」こと、もう一つは、「強大な猛獣は、ネズミのような小さな獲物はまともに相手にはしない」ことです。この二点をおさえられているのはエです。

問八 B1 関係つけ 比較

わざわざ「島の生物ではないが」と前置きしていることから、南米大陸に進出したカピバラも島に進出した生物と同じ進化の仕方をしたと読み取れます。それより前では「天敵がない」、「(仲間との)種内競争が激しくなる」から巨大化した、という話をしていましたから、ここには、エがあてはまります。ア・イ・ウは島の環境のことではありません。

問九 B1 具体化 比較

——線⑫を含む段落は、ここまで述べてきたことのまとめになっていきます。「戦略的」とありますが、この「戦略」は、生存競争を勝ち抜くための戦略です。生物は、自らが住む環境における生存競争に勝ち抜いてきた結果として、大きい体になったものもあれば、小さな体になったものもある、ということですから、大きいことも小さいこともそれぞれにメリットがあります。生物は自らが生きる環境におけるニッチを獲得するために、あるものは巨大化したり、あるものは矮小化したりしているので、ア「巨大化することは…矮小化することに比べ、島で生き抜くには不利な条件になる」とありますが、ここでは、どちらも「戦略的」だと言っており、その優劣を比べてはいません。ウ「けんめいに生きている」と「戦略的」とは関係がありません。エ「現存する生物は」とありますが、ウサギなどの体の小

さな生物は、鳥のような環境では巨大化します。

問十 B1 置換

——線⑬を含む一文に「無理に大きくしたり、小さくする必要のない鳥という環境では」とあります。鳥では「無理に」サイズを変える必要はない、ということ。——線⑩の二文後に「天敵の多い場所では、ネズミなどの動物は、わざわざ体を小さくしているのである」とあります。大陸のような天敵の多い場所では、生物たちは生き残るために「わざわざ」体のサイズを変えているのです。生物たちの、鳥での進化と大陸での進化が対比の関係にあるということを意識して読み進められているかがポイントになってきます。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

3 A1 知識 比較

熟語の組み立ての問題です。上下の漢字の関係を整理しましょう。左記を参考に確認してください。

- ・上の漢字が主語、下の漢字が述語：日照
- ・下の漢字が上の漢字の目的語である：登山・開会・読書
- ・上の漢字と下の漢字の意味が逆になっている：増減・天地・新旧・内外
- ・上の漢字と下の漢字の意味が似ている：寒冷・救助・道路・消失
- ・長い熟語の略語：特急・国連・原発
- ・前に打消しの働きをする漢字がつく：無罪・不便・未開

4 A2 知識 比較

品詞の問題です。活用のあるものは言い切りの形（終止形）に直してから問題にあたりましょう。

- ① 言い切りの形が「い」で用言になるので形容詞です。
 - ② 言い切りの形は「健康だ」となり、形容動詞です。
 - ③ 「私」は名詞です。
 - ④ 活用せず名詞を修飾するので連体詞です。
 - ⑤ 「うれしい」を修飾しており、活用しませんから副詞です。
 - ⑥ 最後の音を伸ばすと、「助けるー」のように、ウで終わるので、動詞です。
- ア「書く」：動詞。
 イ「はなやかだ」：「はなやかな」と活用するので形容動詞。
 ウ「まったく」：「まったくない」のように用言を修飾し、活用しないので副詞。
 エ「大きい」：「い」で用言になるので形容詞。
 オ「いわゆる」：「いわゆる思春期」などのように名詞を修飾し、活用しないので連体詞。
 カ「鉄棒」：名詞。